2012/9/13
日本心理学会第76回大会WS
「隠す」心理を科学する（2）

幼児による嘘，真実の概念理解と嘘をつく行為

上宮　愛（Ai UEMIYA）

北海道大学大学院文学研究科

研究の出発点

- 嘘と真実の理解は子どもの証言能力を推定する上で重要な問題
- Aldridge & Wood(1998,2004)

警察官による面接を100例にわたり分析

- “私のジャンパーは何色かわかりますか（赤）？もし私がこのジャンパーは青って言ったら，私は真実を言っていますか？それとも嘘を言っていますか？”
- “嘘をつくってどういうことかわかる？真実を話すって言う意味がわかりますか？”

などの質問により，子どもの能力を査定

心理学における子どもの嘘と真実に関する理解

1. 嘘や真実の項目を同定させる
2. 善悪判断をさせる
3. 嘘と真実の違い・定義について説明させる
4. 嘘と単なる誤りとを弁別させる
5. 実際に嘘をつかせる

- 4歳ごろには嘘と真実の項目を正しく特定できる（Bussey,1992）
- 嘘と真実の違いについて説明できない（Pipe & Wilson, 1994）
- 意味について説明できない場合でも，嘘は悪いことだと理解している（Peterson, Peterson & Seeto, 1983）

本研究の目的

1．様々な課題を用いて幼児の嘘と真実の概念理解を検討する

2．大人に嘘をつくように指示されるような場面で子どもたちが、実際に嘘をつくことができるかを検討する

3．嘘をつく行為と，嘘の概念理解との関連について探索的に検討する

実験参加者と手続き

- 実験参加者：幼稚園児73名
  - 年少児20名（M = 4歳2か月，範囲3歳7か月～4歳8か月）
  - 年中児28名（M = 5歳1か月，範囲4歳6か月～5歳5か月）
  - 年長児25名（M =6歳1か月，範囲5歳6か月～6歳6か月）
- 手続き：参加者に対して9つ課題を個別の面接形式で行った。

1.同定課題：発話が真実か嘘かを同定できるか？

- ヤン君の発話が真実か、嘘かを特定する

例）ライオンの絵が描かれているびっくり扉

ヤン君：（先に扉の中を見る）「ねずみ」

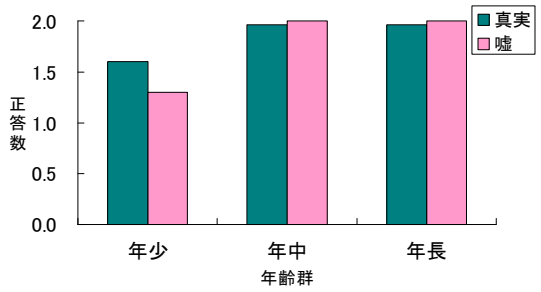
（子どもが見る）

実：ヤン君は嘘をついていますか？本当のことを話していますか？

子：（答える）

（嘘の発話・真実の発話それぞれ2項目ずつ）

同定課題（年齢 × 項目標準得点（z）に基づく交互作用の検定）



•項目の主効果、年齢×項目の交互作用ともにみられなかった
•年齢の主効果が見られた。＝年少児＜年中・年長児

7

2~6.定義・善悪判断課題

嘘（本当）の意味を理解しているか？

2.弁別	嘘と本当は同じですか？違いますか？ 嘘と本当はどこが違うの？
3.定義	嘘(本当)ってどういう意味？
4.善悪判断	嘘（本当）っていいこと？悪いこと？
5.行為の認識	嘘（本当）のことを話すとどうなるの？
6.大人の反応	嘘（本当）のことを話すとお母さん怒る？喜ぶ？

8

2.弁別課題:嘘と本当は同じ？違う？

割合（度数）

	年少	年中	年長
違う	.75 (15)	.04 (82)	1.00 (25)*
同じ	.25 (5)	.07 (18)	.00 (0)*

有意に多い ($p < .05$)

幼児は嘘と真実を異なるものとして認識してはいるが，その違いについて概念的に説明できない。

9

3. 嘘の定義

割合（度数）

カテゴリー	幼児	小学生	中学生	大学生
意図性 信念／反信念	.03 (2)*	.36 (51)	.39 (49)	.56 (69)*
他者との関係性 自他の利益	.00 (0)	.02 (3)	.09 (11)*	. 05 (6)
道徳・善悪判断	.13 (9)	.06 (8)	.13 (16)*	.05 (6)
事実・反事実	.19 (13)	.40 (56)*	.18 (22)*	.24 (30)
その他	.66 (46)*	.16 (23)*	.22 (27)	.10 (13)*

有意に多い ($p < .05$)

10

割合（度数）

4. 善悪判断

嘘（本当）のことを言うことは いいことですか？悪いことですか？

		年少	年中	年長
嘘	よい	.15 (3)	.08 (2)	.00 (0)*
	悪い	.70 (14)*	.92 (24)	1.0 (24)*
	その他	.15 (3) *	.00 (0)	.00 (0)
本当	よい	.65 (13)*	.88 (23)	1.0 (24)*
	悪い	.30 (6)*	.12 (3)	.00 (0)*
	その他	.05 (1)	.00 (0)	.00 (0)

有意に多い ($p < .05$)

11

5.行為の認識：嘘（本当）のことを話すとどうなるの？

%（度数）

		年少	年中	年長
嘘	社会的評価	.00 (0)	.04 (1)	.04 (1)
	権威者からの評価	.25 (5)*	.69 (18)	.83 (20)*
	善悪判断	.10 (2)	.04 (1)	.00 (0)
	その他	.65 (13)*	.23 (6)	.13 (3)*
真実	社会的評価	.00 (0)	.04 (1)	.08 (2)
	権威者からの評価	.15 (3)	.35 (9)	.38 (9)
	善悪判断	.15 (3)	.19 (5)	.00 (0)
	その他	.70 (14)	.42 (11)	.54 (13)

有意に多い ($p < .05$)

12

5.行為の認識：嘘（本当）のことを話すとどうなるの？

- 「嘘をつくとどうなる？」

⇒ 年長児で「権威者からの評価」についての言及が多く見られた

Piaget や Kohlbergの道徳的判断の第一段階で見られる“規則は大人や神によって申し渡されたものであり，変更できない絶対的なものである”という考え方と通じる

- 「本当のことを話すとどうなる？」

⇒年齢の主効果は見られなかった

すべての年齢群でDKや不適切な反応が多く見られた

嘘の理解に比べて真実の理解のほうが困難である。嘘の概念理解は真実の概念理解より先に獲得される可能性がある。

7~8.嘘・間違い課題：嘘と誤りを区別できるか

7.課題A	花子さんが丸い箱に入れた人形をケンちゃんが四角い箱に移し変える →花子さんが見ていないところで ①「花子さんは丸と四角、どっちの箱に人形が入っていると思っていますか？」 ②「本当はどっちの箱にぬいぐるみが入っていますか？」 ③「花子さんが『丸い箱に入っている』といったら花子さんは嘘をついていますか？」
8.課題B	花子さんが丸い箱に入れた人形をケンちゃんが四角い箱に移し変える →花子さんは目撃してしまう 質問は課題Aと同じ

7. 8.嘘・間違いA ,B課題

割合（度数）

	反応	年少	年中	年長
A	正答	.05 (1)*	.16 (3)	.44 (8)*
	誤信念のみ正答	.11 (2)	.32 (6)	.28 (5)
	誤答	.84 (16)	.53 (10)	.28 (5)*
B	正答	.32 (6)*	.62 (12)	.56 (10)
	誤信念のみ正答	.37 (7)	.05 (1)*	.33 (6)
	誤答	.32 (6)	.32 (6)	.12(2)*

有意に多い ($p < .05$)

有意に少ない ($p < .05$)

話者の信念の理解

- 年長児であっても、3. 定義課題で，話者の信念や意図に言及した内容で嘘や真実の定義について説明を行なうことができなかった。

しかし…

年長児は、嘘・間違い課題において、話者の信念をくみ取り、嘘と間違いを弁別できた。

9.行動課題：嘘/真実を話すことができるか

飴玉の入った箱を2つ提示

①中身を聞かれたら，1つは嘘をいい，1つは本当のことを教えるよう教示

理由：2つとも食べるとパペットが虫歯になってしまうから。

②嘘の内容の分析

9.行動課題

割合（度数）

	年少	年中	年長
正答	.25 (5)*	.86 (24)*	.88 (22)*
誤答	.75 (15)	.14 (4)	.12(3)

有意に多い ($p < .05$)　有意に少ない ($p < .05$)

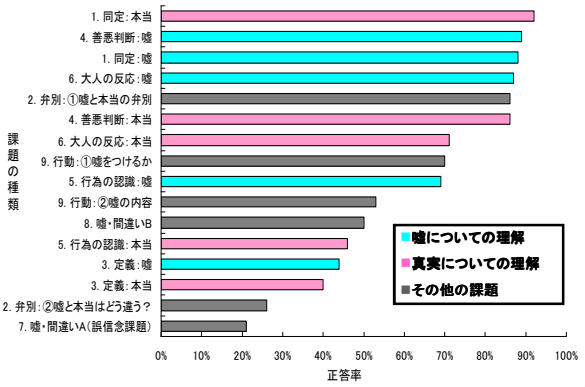
年少児は指示に従い嘘をつくことができなかった。

9.行動課題の反応カテゴリ

カテゴリ		反応例
現実的な 少:3, 中:13, 長:11	•虫歯にならないようにという目的に沿っている •提示した箱に入る大きさの現実的な事物	•おもちゃ •何も入ってない
不適切な嘘 少:1, 中:5, 長:9	•虫歯の原因になり得るもの •食べ物	•チョコレート •キャラメル •ごはん
非現実的な嘘 少:0, 中:17, 長:1	•提示した箱に入らない非現現実的な事物	•車 •像 •キリン
DK/沈黙 少:1, 中:2, 長:1	•1つの箱には「飴」と回答し、もう一方に対して沈黙する、もしくは「わからない」と回答する	

19

各課題の正答率



20

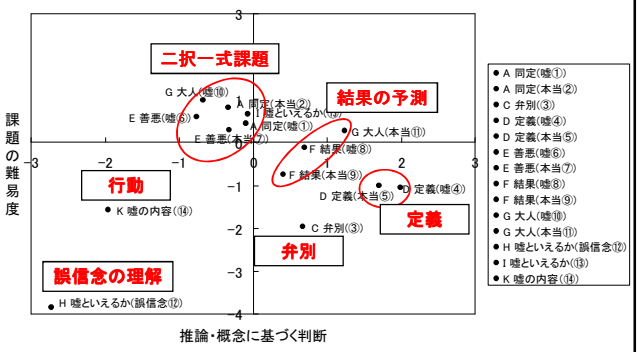
まとめ①

幼児は…

- 嘘と真実の理解は独立して獲得される可能性がある。
  - 嘘に比べて真実の理解のほうが困難である。
  - 嘘の概念理解は真実の概念理解より先に獲得される可能性がある。
- まず，事実か反事実か，善悪判断，そして“嘘をつくとどうなるか”などの理解を通して嘘の概念を形成していく。
- 4歳ごろには大人の指示に従い嘘をつくことが可能になる。

21

数量化Ⅲ類



22

ロジスティック回帰分析

■ 説明変数 :各概念課題の得点

1. 嘘・真実の概念の弁別
2. 嘘・真実の定義
3. 嘘，真実を話すことによる結果の予測
4. 二択一式課題
5. 誤信念課題
6. 年齢

■ 目的変数: 行動課題

各要因の中で，誤信念課題が嘘つき行動を予測できることが示された

Table 5. 課題間の比較におけるロジスティック回帰分析の結果

		係数	オッズ比	*Wald*	*df*	*p* 値
ステップ1	5)誤信念課題(⑫)	-1.51	0.22	4.48	1	0.03
	定数	0.56				
ステップ2	年齢群(年少)	-0.42	0.66	0.21	1	0.65
	年齢群(年中)	1.38	3.99	2.86	1	0.09
	5)誤信念課題(⑫)	-1.68	0.19	3.99	1	0.05
	定数	2.91				

注1. ステップ1: Cox & Snell R^2=.08, Nagelkereke R^2 = .12
ステップ2: Cox & Snell R^2=.19, Nagelkereke R^2 = .26

23

まとめ②

これまで実務家は、同定課題や定義・弁別課題と類似した方法によって幼児の証言能力を検討してきた。

しかし・・・

- 同定課題 ⇒容易であり，子どもの能力を過大評価する可能性がある。
- 定義・弁別課題 ⇒高い言語能力が必要であり，子どもの能力を過小評価する可能性がある。

それに対して

- 嘘をつく・真実を話すことによる結果を予測する
  ⇒年長児では、権威者による評価への言及などにより比較的説明できていた。
- 誤信念課題
  ⇒行動課題と関連がある可能性が示唆された。また、嘘の理解には、話者の信念や意図に関する理解が重要。

24

行動課題と誤信念課題(保護児のデータから)

割合（度数）

		行動課題	
		嘘がつける	嘘がつけない
誤信念課題	誤信念が理解できる	.54 (19)	.34 (12)
	誤信念が理解できない	.00 (0)	.11 (4)

◆34%の参加者が誤信念課題に正答できるのに，嘘がつけない。
⇒相手の信念が理解できていたとしても，適切な嘘がつけるとは言えない。

25

今後の課題①

- ワーキングメモリーや抑制能力などとの関連

⇒嘘をつくには，自分の知っている事実に関する情報を抑制し，相手に事実とは異なる情報を提示する能力が必要になる。

- 欺き行動（選択式の課題）と実行機能との関係については多くの先行研究が存在する。

しかし…

嘘の生成（言語を用いて嘘を作りだす）行為に関しては，発達的な観点から研究された先行研究は少ない。

⇒二次的信念の理解と嘘の生成は関連があるとしている研究もある。

26

今後の課題②

- 文化的な観点からみた発達

嘘や真実についての理解は，文化，教育，家庭の影響を大きく受ける。そのため，海外の研究結果を参考にするだけでは不十分であり，日本では日本独自のデータをもとに議論しなければならない。

- 嘘以外の虚偽の扱い

お世辞，謙遜，冗談，よい嘘，white-lieなど，社会的な相互作用の中で必要となるような虚偽に関する理解の発達と，文化差についての検討がさらに必要。

27